



おいでよ、見てよ、マナーンでよ

『もったいないね』を合言葉に地球環境を守る

11月16日、廿日市市浅原の佐伯クリーンセンターにおいて、廿日市市佐伯公衛協主催の「佐伯リサイクルまつり」が開催された。まつりの来場者は、約450人であった。

まつりは、平成12年度から毎年行われており、14回目を迎える。会場には、古本・マンガ本などのリサイクル品展示即売や、自転車

「おいでよ、見てよ、マナーンでよ」をキャッチフレーズに掲げ、「もったいないね」「まだ使えるね」を合言葉に、ごみの減量や資源の有効活用を推進し、地球環境を守ることへの動機づけを目的に開催された。

はじめに、「環境啓発ポスター」標語コンクール」の表彰式が行われた。廿日市市佐伯地域の4小学校から応募のあったポスター332点、標語75点の中から優秀作品が選考され、17人が表彰された。受賞者は、賞状が手渡されると、笑みを浮かべ喜んでいった。また、応募作品が会場内に展示された。来場者を楽しませた。

会場には、古本・マンガ本などのリサイクル品展示即売や、自転車



賞状を受け取り、喜び子どもたち(上)、EMばかし団子が並べられた公衛協ブース(下)



くの人に関心を持ってもらえるよう、努力していきたい。」と、まつりの感想を語った。

(地域活動支援センター)

走り続ける 認証施設



④ やま磯



認証日:平成19年5月10日
所在地:広島市安芸区矢野新町2-3-12
創業:昭和24年
話し手:常務取締役 磯部 日出夫氏(中)
製造部工場長 吉田 浩二氏(左)
※右は環境協職員

るさまざまな情報を得て、社員に意識をもたせるための教育も行っています。

このように、工場内で衛生管理の徹底を図ることにより、認証を取得する前と比べ、製造過程

また、日々の作業で発生するトラブルや衛生面での問題は、社員同士で意見を出し合って改善し、より一層の衛生管理安全管理につなげていきたいと考えています。

■業務内容

海苔ふりかけ「さるかに合戦」や、味付海苔、焼海苔の製造・販売を行っています。

■認証取得の効果

弊社では、社員全員が同じ意識のもと、同じ行動を取るよう衛生管理マニュアルを作成し、統一した衛生管理を行う

社員の意識向上による不良品減少

お客様に安心・安全・満足を

ています。衛生管理マニュアルに違い、確実に実行することで、社員の衛生管理に対する意識が目に見える形で分かるようになりました。さらに、衛生管理に関する

における廃棄商品や不良品が減少しました。また、社員一人ひとりの衛生管理に対する意識の向上により、品質の向上や作業の効率化が図れるようになりました。

用のなかで適宜、改善、改良を重ねていく必要があると考えています。特に、汚染の生じやすいエリアにおいては、作業動線を厳しく監視し、汚染の拡大を防止します。

また、日々の作業で発生するトラブルや衛生面での問題は、社員同士で意見を出し合って改善し、より一層の衛生管理安全管理につなげていきたいと考えています。

■消費者の皆さまへ

「食べ比べればやっぱりやま磯」をキャッチフレーズに、素材・原材料にこだわり、食べておいしいものをお客様に届けたいと考えています。これからもやま磯は、お客様にとって常に安心・安全・満足をお届けできるよう、日々努力してまいります。

(インタビュー: 中川 記事村上)

人間ドック がん検診 を知る

④ 胃がん

「検査がづらい、大変」と良くないイメージばかり印象に残る胃部X線検査ですが、胃がん検診ガイドラインには『現時点で科学的にがん検診の有効性が証明されている検査

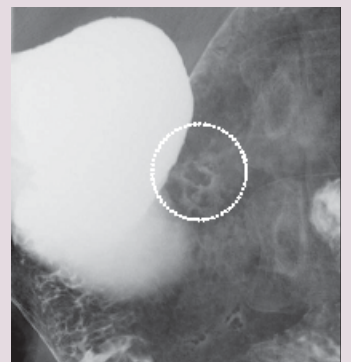
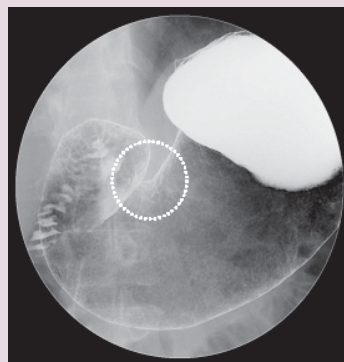
法は胃部X線検査のみ』と記載されており、国が推奨する唯一の検査法であることはあまり知られていません。

胃部X線検査は、胃の内壁にバリウムを均等に付着させて胃粘膜の凹凸と辺縁の形状を撮影しており、胃粘膜は写し絵として間接的に描出されます。近年バリウム製剤の改良、撮影手技の改善、何より受診者の皆さまの体位変換とゲップの我慢というご協力により「早期胃がんは発見できない」から「いかに早期胃がんを発見するか」という時代が変わり、現在では1cmにも満たない大きさの病変も指摘できるようになりました。しかし、病変の指摘は可能でも「直視」していないので「〇〇の疑い」と診断され、「要精密検査」と診断された方は胃内視鏡検査による良性悪性の鑑別が必要

国が推奨する『胃部X線検査』 1cm未満の小さな病変も指摘可能

になります。最近では、胃部X線検査の代わりに胃内視鏡検査が人間ドック等で実施されることも増えてきましたが、科学的根拠が不十分という理由で「胃がん検診」としての実施を国は推奨していません。また、血液検査によるペプシノゲン検査、ヘリコバクターピロリ抗体検査については「検診」ではなく「リスク評価」だと位置づけられています。しかし、単独での活用ではなく検査を併用することで、胃がんの更なる早期発見に繋がると考えられます。胃がんに限らず医療技術の進歩により、がんは早期発見早期治療で治療できる病気となりました。そのためにも、定期的に検査を受けることが必要ですので、年に1度は時間にゆとりをもってご自身のお体をチェックしてみたいはいかがでしょうか。

(ドック課 富士田 亮介)



当会の胃部X線検査で「早期胃がん疑い」と指摘。内視鏡検査の結果、分化型の早期胃がんと診断された一例